

さくら防災学習新聞

10月

未来につながる支援

発行日：2017年10月27日 発行：NPO法人さくらネット

防災学習アドバイザー・コラボレーター

神戸学院大学現代社会学部 非常勤講師 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 特任教授 諏訪 清二先生

「保健室へのこどもたちの来室が、例年の1.5倍くらいあるんです」とある学校の養護教員から聞いた。「大きな余震の時はたくさんのこどもが来て泣いていました」とも。2回の震度7を記録した地震発生から半年近くたったのことである。こどもたちの心と体には、あの時の恐怖が染み込んでいて、ちょっとしたきっかけでわっと湧き上がってくるのだろう。私たちが話をした先生方の中には、地震の時に心の中にどんな変化が起こって、それにどう対応したらいいかを、地震前に知っておきたかったとおっしゃる方が少なくなかった。目の前にいるこどもたちのちょっとした変化を敏感に感じ取り、なんとかしてあげたいと思う先生方にとって、どんな支援が一番支えになるのか、いろいろ考えてみたけれど、結局のところ、心のケアの要素を防災学習の中に取り入れて、「安全感」と「安心感」、そして楽しさを前面に打ち出したプログラムが今は一番ピッタリ合うというのが、私の結論だ。

熊本地震では、心のケアが混乱していたとよく聞く。いろいろなやり方が、予備知識を持たない人々に無秩序にもたらされて、大きな戸惑いを生じさせたのだ。「PTSD3,000人」という新聞記事も不安を増大させただろう。そんな混乱がひと段落して、1年目の記念日を迎えるようとしている時、もう一つの不安が生まれている。記念日症候群である（先生方は一様に英語のアンバーサリーという言葉が使われていた。誰かが言い出した言葉が、不安を持つ先生方にさっと広がっていったのだろう）。

過去の災害では、こどもたちに不安を与えるから、学校では災害の話はしないようにしようという方針で臨んだ学校、教育委員会もあるという。でも、正直に言うとこれはナンセンスだ。学校でいくら頑強に蓋をしても、家でテレビを見ていると、その時の映像が飛び込んでくる。その時こどもたちが不調になったらどうしたらいいのだろう。学校外のことだから責任はないと言うつもりだろうか。それよりも災害時に起こる心の変化を丁寧に教え（心理教育）、どう対応したらいいかを伝えておく（ストレスマネジメント）方が絶対にいい。

だから、熊本の小学校では、「心のケアと一体的に進める防災学習」を取り入れて活動してきた。心の変化に対する「3つの安心感」を説明し、心を軽くするちょっとした魔法を教え、災害を引き起こす自然現象、備え、対応の三要素からなる防災学習で「安全感」を伝えるのである。この「安全感」は「安心感」につながる。関西人だから、当然、授業に笑いを取り入れる。そんな1時間でこどもたちの笑顔が広がり、保護者の皆さん、先生方にホッとした雰囲気芽生えていく。

ある小学校の先生方は、早朝から保護者の車で登校するこどもたちを迎え、徒歩で通学してくるこどもたちの交通安全に気を配り、臨時スクールバスで遠くの仮設住宅から通ってくるこどもたちを迎える。本務の授業をし、いつもより落ち着いたこどもたちの心配をし、帰りも同じようにこどもたちの安全を確保する。災害がないときと同じ仕事をし、さらに災害がもたらした多くの仕事もこなす。本当に休まる暇がない。行政はなぜ、もっと多くの加配を打つなどの支援をしないのだろうと思う。もちろん、そのためには予算が必要で、予算は議会を通らなければ成立しないし、市町村レベルではそんな予算もないし、結局のところ県か国が動かなければどうにもならないことはわかっているけれども。どうしてこの国では、被災地の人々の（ここではこどもたちと先生方の）気持ちに寄り添った行政ができないのかと嘆きながらも、一方でこどもたちと保護者、先生方が納得できて、笑顔になれる、未来につながる支援をしていきたいと思っている。

絵本【しまうまのトラウマ】のその後

恐怖体験からの回復プロセスを表現した絵本「しまうまのトラウマ」。おかげさまでご好評をいただき、いろいろな方が発信し活用くださっています。

益城町立飯野小学校さまが学校HPにリンクを掲載くださいました。
兵庫県立神港橋高等学校さまからは、「エプロンシアターで上映したい」と声をいただきました。ありがとうございます。

この絵本は、熊本地震後に学校の先生や子ども支援に関わる方々から、「災害前にトラウマ・ストレス反応やその対応について知りたかった」「地震をこわがる子どもたちも、回復プロセスについて知れる絵本がほしい」という声を受け、臨床心理士の高橋哲先生の原作をもとに作製しています。



絵本の後ろのページには、先生方の専門的な視点からの解説が掲載されています。「わかりやすい」とご好評をいただいております。



さくらネットのHPから、データを自由にダウンロードできます。被災地、未災地の方々に届きますように。ぜひご覧ください！

<http://npo-sakura.net/pdf/shimauma161219-1.pdf>

お礼

平成29年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」の応募受付を締め切りました。北は北海道、南は沖縄まで、全国各地から130件のご応募をいただきました。たくさんのご応募、ありがとうございました。受賞校の発表は、12月を予定しています。

連絡先

〒663-8201
西宮市田代町16-8
パルティーレN棟 西号室
0798-64-5829
<http://npo-sakura.net/>



Sakura-net

ひょうご安全の日推進事業